

第9期総合介護市民協議会（令和8年度第1回） 会議概要

日 時：令和8年5月15日（金） 14：00～15：00

場 所：近江八幡市役所 3階 特別会議室1

出席者：安田会長、塚本副会長、藤居委員、藤田委員、三崎委員、河村委員、山本委員、梅村委員、坂井委員、小林委員、東森委員

事務局：介護保険課・長寿福祉課、JMC株式会社（委託業者）

傍聴者：なし

1. 開会

事務局 皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しいところ、総合介護市民協議会にご出席いただきありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまより令和8年度第1回総合介護市民協議会を開催いたします。それでは、まずお手元の資料について確認させていただきます。本日、お手元に配布しておりますものとしまして、座席図と、委員様の名簿、アンケート調査の報告書が紐綴じのものになります。お揃いでしょうか。また、事前に大きいA4サイズの封筒でお送りしております事前送付資料としまして、今日の次第と、資料1から4まで、お手元にごございますでしょうか。ご不足等ありましたらお申し付けくださいませ。よろしかったでしょうか。ありがとうございます。

それでは、お手元の会議次第に基づいて説明させていただきます。まず初めに一言、会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長 よろしくをお願いいたします。本年度が最終年度となりますが、新しく来られた方もお見えかと思しますので、改めまして、本年度もよろしくをお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは引き続きまして、次第の3、第10期「近江八幡市総合介護計画の策定にかかる諮問」に移らせていただきます。はじめに、皆様ご承知のとおり、高齢者福祉及び介護保険事業の根幹ともいえます市の総合介護計画については、今年度が第9期の最終年度でありまして、次の第10期総合介護計画の策定年度ともなっております。

それでは、市介護基本条例第39条に基づき、第10期近江八幡市総合介護計画策定の諮問書の交付をお願いいたします。会長と市長代理の福祉保険部長、お願いいたします。

事務局 それでは、諮問書を読み上げさせていただきます。諮問、令和8年5月15日、近江八幡市総合介護市民協議会 会長 安田 誠人様、近江八幡市長 徳永 久志、第10期近江八幡市総合介護計画の策定について諮問、下記の計画を定めるにあたり近江八幡市介護基本条例第39条第1項の規定により、貴協議会に諮問します。

第10期近江八幡市総合介護計画、近江八幡市高齢者福祉計画、近江八幡市介護保険事業計画。

事務局 引き続きまして、諮問にあたり、市長よりご挨拶させていただくところですが、あいにく公務が重なりましたため、福祉保険部長より一言ご挨拶を申し上げます。

事務局 皆様、こんにちは。どうぞよろしくをお願いいたします。本日は市長の挨拶を預かって参りましたので、代読をさせていただきます。

委員の皆様方には、日頃より本市の介護保険事業をはじめ、福祉行政はもとより、市政各派にわたり格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。さて、介

護保険制度におきましては、介護保険事業計画を3年ごとに作成することとされております。現在の第9期介護保険事業計画は、令和6年度から令和8年度までの3年間の計画としており、今年度が最終年度に当たるとともに、次期計画の策定の年度となっております。また、昨年に開催されました厚生労働省の社会保障審議会介護保険部会においては、第10期計画の策定に向けた議論が始まり、その中で2024年には介護と医療の複合ニーズを抱える85歳以上人口、認知症高齢者、独居の高齢者等の増加と同時に、現役世代の生産年齢人口が減少する中で、地域包括ケアシステムのさらなる進化と、地域の実情に応じたきめ細やかな中長期的対応の必要性が示されました。本市におきましては、令和8年3月末現在、65歳以上の高齢者は2万2885人、高齢化率は約28%と、滋賀県平均を上回る状況で推移しております。高齢化率自体は横ばい傾向にあるものの、団塊の世代が後期高齢者へ移行したことにより、75歳以上の高齢者の割合が増加し、今後、介護ニーズの高まりが見込まれております。第9期介護保険事業計画においては、2025年及び2040年を見据え、高齢者の方が可能な限り住み慣れた地域で心身ともに充実した生活を送ることができるよう、各種施策を推進してまいりました。第10期の計画におきましても、介護予防や健康づくりの推進はもとより、介護が必要となった場合においても、可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、医療と介護の一層の連携を図り、地域の実情に応じた介護サービスの提供体制の確保に取り組む必要がございます。そのためには、近江八幡市総合介護市民協議会における皆様のご意見やご議論が不可欠であると考えております。今後、第9期の事業計画の進捗管理などを図りながら、第10期の事業計画の策定に向けて協議を進めさせていただくこととなります。委員の皆様方におかれましては、これまで培ってこられました知識や多様なご経験などを大いに生かしていただきまして、それぞれの視点からご意見をいただき、より一層充実した協議ができますようお願い申し上げます。結びに、委員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。はなはだ簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。令和8年5月15日、近江八幡市長 徳永 久志 代読でございます。

事務局

ありがとうございました。協議に先立ちまして、委員の皆様をお願いしておりますが、各機関の人事異動や役員交代により、当協議会の委員に変更がございましたのでご紹介をさせていただきます。近江八幡市健康推進協議会の北川 芳子委員が辞任され、新しく、河村 かおり委員に来ていただいております。近江八幡市老人クラブ連合会の村北 節子委員につきましても辞任されまして、梅村 貞一郎委員にご就任いただきました。本日はお越しいただきありがとうございます。新しくなられました委員の任期につきましても、前任委員の残任期間となります。およそ一年弱になりますが、どうぞよろしく願います。

また、ここでご出席の皆様より順番に自己紹介をお願いしたいと思います。なお、こちらのマイクですけれども、ご発言の前には、マイク下部のボタンにて入り切りの操作を終わりましたらしていただきますと切れますので、こちらについて願います。それでは会長からよろしく願います。

委員
事務局

(委員及び事務局より自己紹介)

事務局

皆様ありがとうございました。どうぞよろしく願います。
それでは、お手元次第の4に移らせていただきます。近江八幡市介護保険条例第14条第2項の規定により、協議会の議長は会長が務めることとなっております。ここからは会長、よろしく願います。

会長

それでは、失礼いたします。近江八幡市介護基本条例第14条第2項により議長の方を務めさせていただきます。議事の進行につきまして、委員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。座って失礼いたします。先ほど、市長から諮問をいただきましたので、第10期総合介護計画の策定に向けて取り組んでいきたいと考えております。よ

ろしくお願いいたします。では最初にですね、事務局の方から委員の出席状況につきまして報告のほどよろしくお願いいたします。

事務局

はい、ご報告いたします。総合介護市民協議会の人数は17名であります。すでに事務局へ欠席の報告をいただいている委員は、柴田委員、真部委員、深尾委員、中村委員、高橋委員、廣瀬委員になります。ただいまの出席員数は11名です。したがって、近江八幡市総合介護市民協議会基本条例第14条第3項の規定による定足数である過半数の8名を超えておりますので、本協議会は成立していることを報告申し上げます。

会長

はい、ありがとうございます。ただいま事務局の方から本協議会は成立している旨、報告がありましたので、次第に基づいて進行の方をさせていただきたいと思っております。本日は報告が1点、議事が3点になります。

それではまず最初にですね、近江八幡市の高齢者を取り巻く現状について、事務局より報告のほどよろしくお願いいたします。

事務局

よろしくお願いいたします。それではお配りしております資料1「令和7年度近江八幡市介護保険事業の状況」について、本市の状況を報告させていただきます。資料の2ページをご覧ください。

「1 近江八幡市の人口ピラミッド」について、本市の人口は令和8年3月31日現在で、男性4万138人、女性4万1501人、総人口8万1639人となっております。年齢5歳階級別に見ると、男性は50から54歳の人口が最も多く、次いで45から49歳、75から79歳が続いています。女性については、75から79歳の人口が最も多く、次いで50から54歳、45から49歳が多い年齢層となっております。

次に3ページをご覧ください。「2 計画と実績の比較 ①65歳以上人口と高齢化率」についてです。令和7年度の65歳以上人口と高齢化率について、各年9月末時点の推移を示したグラフです。令和5年9月末時点で高齢化率は28%に達し、そこから令和6年及び令和7年9月1日時点の高齢化率は28%で変化がなく、横ばいの状態が続いております。全体の平均は28%ですが、中学校区別に高齢化率を見ると、下のグラフにおいて四角で囲われた数字になりますが、安土中学校区、八幡中学校区ではそれぞれ29.2%、28.6%と高く、八幡東中学校区が26.1%と全体平均よりも低くなっております。さらに小学校区別では島小学校区が37.6%と一番高く、次いで馬淵小学校区が34.5%、武佐小学校区が33.1%と続いています。これらに対し、金田小学校区が22.9%と最も低く、次いで岡山小学校区が26.2%、桐原小学校区が27.9%と続いており地域によって高齢者の占める割合には大きく偏りがあることがうかがえます。

次に4ページをご覧ください。「第1号被保険者（前期・後期高齢者）の推移（年度末）」について。高齢者数の増加に合わせて、後期高齢者の割合も年々増加しております。これは、団塊の世代が高齢者となり、さらには後期高齢者となっているためと考えられます。令和3年度以降、75歳以上である後期高齢者の割合が、65歳から74歳までの前期高齢者の割合よりも大きくなりました。次に「②要支援・要介護認定者数と認定率」についてです。認定率第1号被保険者数に対する要支援・要介護認定者数の比率が、ここ数年は14.7%前後で横ばいに推移していましたが、令和5年度から令和7年度にかけて14.7%から15.9%とやや増加いたしました。認定率は近年やや増加していますが、介護平均度は令和6年4月以降減少しております。要因としては、要支援1、2と要介護1が増加している一方で、要介護2以上の認定者数が減少していることが挙げられます。

続きまして5ページをご覧ください。「③要介護度別認定者数と受給者数の推移」についてです。認定者数は、介護保険制度がスタートした平成12年1413人と比較すると約2.55倍に増えています。要介護認定者数が平成21年度から1.5倍に増加し、要支援認定者数は平成27年度から減少していましたが、令和5年度末頃から要支援1から要介護1までの人数が増加に転じています。

そして最後に6ページをご覧ください。「④年齢構成別の認定者数」についてです。年齢構成別の要介護・要支援認定率を見ると、80歳を過ぎてから認定率が急上昇して

います。また 75 歳以上の後期高齢者では 24%の方が要支援・要介護認定を受けています。令和 4 年と令和 8 年で比較すると 75 歳以上の認定率が 25.9%から 24.5%に低下しています。全体の高齢者人口は増加していますが 65 から 75 歳までの人口がおよそ 2000 人減少し、75 歳以上人口がおよそ 2000 人増加しました。認定者数も 65 から 74 歳と 80 から 84 歳の認定者数はやや減少しましたが、その他の全ての年齢層で認定者数は増加となりました。

状況報告としては以上となります。

会長

ありがとうございます。それではただいま事務局から報告していただきましたが、この件に関しまして質問等ございましたらよろしくお願い致します。

(質問等無し)

よろしいですかね。またこちら何か後で気づいたことございましたら、お願いしたいと思います。

それではですね、次に審議事項の方に入りたいと思います。議事 1 ですね、「高齢者雇用調査（介護以外事業所）の調査票について」こちらにつきまして事務局から説明のほどよろしくお願ひいたします。

JMC(株)

報告させていただきます。着座にて説明いたします。

それでは皆さん、お手元の配布資料の 2 をご覧ください。こちら、介護以外の事業所を対象にした検討の調査票となります。本日は、調査内容について説明いたします。本調査は、市内の介護以外の事業所を対象に、高齢者雇用について調査をします。調査方法は、近江八幡商工会議所、安土商工会を通じて案内を配布し、Web フォームにて回答をいただく予定となっております。調査期間は、令和 8 年 5 月 19 日（火）から 6 月 9 日（火）までとなっております。本調査につきましては、国によるものではなくて、本市の独自の調査となります。高齢者雇用を調査する主な目的は 2 つございます。1 つは、高齢者の就労に関する事業所の状況・意向の把握です。もう一点は、「近江八幡市ささえあい商助推進事業者」の取組に関する状況、また、意向の把握でございます。これらを把握して、高齢者の就労環境の整備や介護以外の事業所の取組の推進等につなげていきたいというふうに考えております。

調査内容につきましては、資料 2 にあるとおり、大きく 3 つのパートで構成しております。一つ目が、1 貴事業所について、2 高齢者雇用について、3 商助・地域貢献について、この 3 つのパートで構成しております。まず、1 の貴事業所については、業種、従業員規模を聞いております。従業員では、うち数として 65 歳以上の従業員数を答えていただく形となっております。次に、高齢者雇用については、定年や継続雇用制度、再雇用の状況、高齢者雇用の課題、必要な支援等について聞いております。商助の詳細については、市のホームページへのリンクを貼り、詳しい説明を見ることができるようしております。次に、「3 商助・地域貢献について」では、3 ページになりますが、商助の認知度、地域貢献活動の状況、支援の要望等についてお尋ねしております。私から説明は以上となります。

会長

ありがとうございます。それでは今ですね、説明していただきましたけれども、この件に関して質問等ございましたら、よろしくお願い致します。

(質問等無し)

ありがとうございます。では、こちら審議事項になりますので、こちら賛成していただける方は挙手の方をお願いしたいと思います。では、よろしくお願ひいたします。賛成の方は挙手をお願いいたします。

(全員一致で賛成)

はい、ありがとうございます。今回、全員一致で賛成をしていただきました。ありがとうございます。

では引き続きまして議事の2に移りたいと思います。第10期総合介護計画策定スケジュールにつきまして事務局から説明のほどよろしく願いいたします。

事務局

はい、それでは資料の3、第9期近江八幡市総合介護市民協議会 第10期計画策定スケジュール案をご覧ください。

本年度につきましては10期計画の策定年度にあたるため、総合介護市民協議会でその計画策定に向けてご協議いただきます。そのため、本日1回目の協議会として計5回の会議の開催を予定しております。本日第1回目の会議の内容につきましては、策定スケジュール、人口高齢者認定者数などの推計、日常生活圏域の設定、ニーズ調査の報告となっております。第2回目につきましては、8月6日木曜日午後からを予定しております。開催案内等につきましては、改めて通知もさせていただきますが、各委員の皆様につきましては、予定の方をお願いいたします。会議の内容につきましては、ニーズ調査、分析、施策、目標達成状況の点検、評価計画体系案、在宅介護実態調査の報告となっております。次に、第3回の会議につきましては、10月1日木曜日午後からを予定しております。8月と合わせて予定の方をお願いいたします。会議の内容につきましては、理念、10期目標の設定、目標設定に向けた10期での取組、10期介護基盤計画の案、各年度における介護保険事業、各サービス見込み料となっております。第4回は11月といたしまして、会議の内容といたしましては、介護保険料案、総合介護計画素案、パブリックコメント等の実施方法となっております。第5回目は1月といたしまして、内容はパブリックコメント対応、保険料決定、総合介護計画案の決定ということで、本協議会の開催を予定しております。また、計画策定に向けて、各部会の会議スケジュールにつきましては、資料の中ほどに書かせていただいております。記載のとおりとなっておりますので、ご覧ください。本日の諮問を受け、第10期近江八幡市総合介護計画につきましては、市長へ1月から2月に答申することでスケジュールに組みさせていただいております。

スケジュール案につきましては以上となっております。

会長

はい、ありがとうございます。ただいま事務局の方からスケジュール案につきまして説明していただきましたが、この件に関しまして質問等ございましたらよろしく願いいたします。

(質問等無し)

よろしいですか。今年度は、最終年度ということでたくさんご負担かけるかもしれませんが、よろしく願いしたいと思います。

ではこちらにつきましては、こちら審議事項になりますので賛成していただける委員の方は挙手のほどよろしく願いいたします。

(全員一致で賛成)

ありがとうございます。こちら全一致で賛成していただきました。では次に議事の4ですね、日常生活圏域の設定について、こちらについて事務局から説明のほどよろしく願いいたします。

事務局

はい、それでは資料4をご覧ください。日常生活圏域の設定案ということで説明をさせていただきます。

本市では高齢者が住み慣れた地域での生活を継続していけるように、地理条件や社会資源等の整備状況などを勘案して、日常生活圏域を設定しております。文中「令和7年(2025年)を目標とした地域包括ケアシステムの構築と、」という部分を削除し、「令和22年(2040年)に向け、地域包括ケアシステムを深化させ、」という表現に修正させていただきました。第10期につきましても、第9期を踏襲し、当初設定を変更

せず中学校区での4つを日常生活圏域に定めさせていただきたいと思います。なお、地域包括支援センターの設置は、第9期より日常生活圏域に合わせて4か所としております。

説明は以上でございます。

会長

はい、ありがとうございます。それでは、ただいま事務局から日常生活圏域の設定につきまして説明していただきましたが、この件に関しまして、質問等ございましたらよろしくお願いたします。

(質問等無し)

はい。ではこちらの圏域でね、前回と同じ圏域の設定で進めさせていただきたいと思いますが、こちらにつきましても、賛成していただける委員の方は挙手のほど、よろしくお願いたします。

(全員一致で賛成)

はい、ありがとうございます。こちら、全一致でございます。それではですね、引き続きまして、その他の方に移りたいと思います。事務局の方から説明のほどよろしくお願いたします。

事務局

ありがとうございます。本日、お手元に配付しました紐綴じのこちらの「第10期近江八幡市総合介護計画策定に係るアンケート調査報告書」について取りまとめができましたので、ご報告をさせていただきたいと思います。こちらは、令和7年度に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」と、「在宅介護実態調査」と、「介護支援専門員調査」の3つの調査を統計的視点に重きを置き、委託業者のJMCさんの方で分析いただいたものになっておりますので、業務を担っていただいたJMCさんよりご説明いただきます。よろしくお願いたします。

JMC(株)

それでは、アンケート結果について私のほうから説明させていただきます。

本日は、令和7年度に実施した3調査についてですが、この調査結果については、速報としまして、令和7年度の本協議会の最後の回にアンケートの調査の報告ということで報告、説明させていただいているところでございます。本日はですね、その後の分析結果の深掘りした調査結果、調査報告書の見方に関して、若干の留意点を説明させていただきます。はじめに、ちょっとおさらい的なこととなりますが、調査内容についてでございます。3調査の調査期間は、令和7年12月1日から令和8年の1月5日まで実施いたしました。ニーズ調査の対象は、市民居住の介護保険第1号保険者(65歳以上、要支援認定者を含む)4000人でございます。在宅介護実態調査につきましては、市内居住者で、在宅で生活をしている要介護認定者1,100人でございます。介護支援専門員調査につきましては、事業所紹介一覧に掲載の市内外の居宅介護支援事業所の居宅介護専門員の106名を対象にして実施しました。それぞれ調査結果を整理した課題の一部について、本日は簡単に説明したいと思っております。

まず、課題の一つ目ですが、まずニーズ調査から見えてきた課題ですが、相談窓口の認知度の向上がさらに必要ではないかというふうに考えております。地域包括支援センターについて、一般高齢者の43.4%は全く知らないと回答しており、身近な相談窓口としての認知度の改善の余地があるというふうに考えております。また、一般高齢者の40.0%は、家族外の相談相手があるような人はいないと答えており、孤立に結びつかないようにすることが必要であるというふうに考えております。また、商助の普及についてでございますが、地域の民間事業者による生活支援の商助の取り組みについて、一般高齢者の86.5%は知らないと回答しております。

委員

すみません、よろしいですか。何ページというのをさせていただきたいと思うのですが、資料のページ数で確認を取りたいんですが、今のお話ですと、どこを見ていい

のか、さっぱりわからない。全部ではなくても結構ですが、ある程度のページ数のところを教えていただかないと、ついていけないと思いますね。

事務局

すいません、皆様お手元の 1 ページの内容の実際の詳細についてちょっと書いていないものも含めて今ご説明いただいております。ちょっと申し訳ありません、一つ今、誤字を見つけてしまいましたので、訂正をお願いできたらと思うんですけども、「2. 調査の実施」について表がごさいますけれども、こちらの介護支援専門員調査と、介護保険サービス等参入意向調査の方法についてなんですが、「郵送による配布、Web フォームによる回収」の“よ”がちょっと抜けてしまっておりますので、追記いただけたらありがたいです。よろしくお願いします。

JMC(株)

すみません、失礼いたしました。それでは 97 ページをご覧ください。97 ページの間 6 (5)、これは一般高齢者に対してですね、家族や友人、知人以外で何かあったときに相談する相手を答えてくださいという設問となっております。下のデータですね、見ていただきたいのは、そのような人はいないというのが下から 2 つ目にあるかと思いますが、一般高齢者の 40%の方がそういう家族以外で相談する人はいないというように答えておりますので、課題としましては、このような方がですね、孤立に結びつかないようにすることが大事ではないかというふうに考えております。

次に、71 ページをご覧ください。71 ページの間 5 (2) は、地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動と行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動にあなたは参加者として参加してみたいですか、というふうに参加意向を聞いております。結果は下のグラフを見ていただきたいんですが、「参加してもよい」が約半数になっております。「参加したい」を含めると 50%台半ばまで、要するに半数以上の方は参加意向があるという結果になっております。ですので、こういった参加意向のある方をこういう活動につなげて、不要な行動変容をするような取り組みが必要ではないかというふうに考えております。

委員

ちょっと質問してよろしいですか。この 2 つのご説明の中でも、前回調査結果と比較して表が出ている部分と、前回調査結果と比較せずに表が出ている部分があるんですが、その部分についてはあくまでも前回の調査ではこの項目は今説明した 71 ページのものはなかったもので、今回分だけで表示されているという見方でよろしいですか。

JMC(株)

ありがとうございます。おっしゃる通りでして、この資料の 1 ページ目に表の留意点を書いておりますので、1 ページをご覧ください。1 ページ目の下、「4 留意点」というのがございますが、今ご質問いただいたことに関しては、一番下の四角「クロス集計については」というところがございます。基本的には統計的な有意差があるものについて掲載しているという形になっております。ちょっと一番下の四角を読み上げます。クロス集計については、基本的に各クロス項目で統計的な有意差（有意水準 5%、p 値 0.05 未満）が確認できた項目について、表とコメントを記載しています。ただし、各クロス項目の回答数が 10 以下の場合には参考値としております。ということで、統計的な処理をしてですね、優位な差が認められたものを中心に、経年変化であるとか、集計については掲載をしているという形になっております。よろしいでしょうか。

それではデータに戻りまして、74 ページをご覧ください。

74 ページは先ほどご紹介したデータに似たような設問ですが、違うところは地域の活動にですね、企画、お世話役として参加してみたいですかという問いになっております。これで見ますと、やはりですね「参加したい」、「参加してもよい」という方は、先ほどの参加者として参加するよりはいるんですが、ただそれでも 31.8%と約 2%ございますので、まずこういった方に積極的に参加してもらおうような行動、世話役として参加していただくような行動変容を起こすような取り組みが大事ではないかというふうに考えております。

最後に 378 ページをご覧ください。こちらは、ケアマネジャーへの調査についての結果でございます。ケアマネジャーの業務の中での課題は何ですかという設問に対して、「事務量が多い」が 61.1%で最も多くなっております。次に、「経済面での調整が

難しい」が 50%、「制度にまたがる支援調整が難しい」が 34.7%となっております。こうしてケアマネジャーの事務量負担の軽減というのは課題の一つであります。こういった課題が今回の調査についてもデータとして読み取れるのではないかとというふうに考えております。

私からは以上となります。

会長

はい、ありがとうございました。また委員の皆様、JMC 様の質疑応答に対応していただきまして、ありがとうございます。こちらはですね、本日初見の内容も多くありますので、一度持ち帰っていただいて何かありましたら事務局まで連絡いただければと思います。現時点で取り急ぎ確認したいこととか、もしありましたら今挙手してもらえればと思いますが、いかがでしょうか。

委員

本当に簡単などころで、今回調査と前回調査、年度は明確に示した方がいいだろうなどという感じで思いました。今回は 7 年度調査、前回は 3 年前、令和 4 年というところを見て行ってほしいということをおかないと、前回というのははっきりしないですね。

JMC(株)

わかりました、明示するようにいたします。

委員

表としてはこれで見ちゃうとなんか似通って見えちゃうので、わかりやすい、なんというんですか、網掛けだったり白抜きだったりとか、はっきりした方がより見る側は見やすいかなと。

JMC(株)

より対照的に、ということですね。

委員

そうですね。非常に参考になるコメントかなというのと、先ほどの 74 ページの間 5 なんかは、居住地区によって非常に開きがあるというところは、少し気になったところですね。どうしてこんなに下がるんだろうとか、もう少し何か分析も必要なのかなというところも思った次第ですね。「ぜひ参加したい」これは岡山学区、学区によって差が大きいということをもう少し言いたいのかなというところがあると、学区単位ですべきことが違ってくるということにもなる。取り組み内容が変わってくるということになるかなというふうに思っているところなので、非常に興味というか、気になるデータでもあるのかな、もう少し丁寧に分ければいいなっていうのは、今日は簡単な説明の中でいただいているので、なるほどっていう感じで伺いさせていただきました。ありがとうございました。

会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員

ちょっと教えていただきたいことがあってよろしいですか。97 ページの「何かあった時に相談する相手」で、「そのような人がいない」というのが、今回の調査で 40%になって、窓口の認知度が低いんじゃないかっていうご意見があったんですけども、前回は 35.7%となっているんですけど、ちょっとパーセンテージだとあまりわからなくて、近江八幡市で考えると大体何人ぐらいが相談する相手がない人が増えているところになるのかなというので、ちょっとそこを教えていただきたいなと思ひまして。

JMC(株)

増えた部分が何人ぐらいかということですか。ちょっと今計算しますが、表の見方としましては、このグラフの上に今回調査、前回調査の N イコール 2285 人、その下に N イコール 1951 人というのが、これが前回と今回の全体の人数ですので、これのうちの 40%、これのうちの 35.7%なので、その差額が今計算しますが、増えたわけになりますね。

委員

これ抽出調査ということなので、多分 4,000 件配って回収率があるので、ただ、近江八幡市としては多分人口が何人いて、大体想定として何人ぐらいそういう人が増え

たのかというのが見える調査なのかなと思って見ていたんですけど、そういうことではないですか。

JMC(株) いや、それで正しいと思います。今、全体の人数、全体で5%分をかけた分が増えたというふうになるかと思います。全体を推計するという。それでよろしいかと思います。

会長 ありがとうございます。またこちら次回の時でもね、分かりやすく説明してもらおうとありがたいなと思います。どうもありがとうございました。
それ以外、いかがでしょうか。

ありがとうございます。こちらはですね、結果集計終わってから間がないこととかですね、今回のアンケート、JMC 様側での担当者の異動とかもあって大変な時だと思えますが、先ほど意見がありました網掛けの活用など、データの見方とかね、見やすい資料を作っていただければと思います。はい、どうもありがとうございました。

はい、それではですね、他何か質問とかよろしかったですかね。

委員 この資料は一応、残すというか持っておいて、自宅に置いとけばいいっていう形ですか。

事務局 ただ、今も申し上げましたように、統計的有意差に重きを置いたものになっていますので、ちょっと分析が一般の方にはちょっと誤解されるかもしれない表現が含まれていると思いますので、委員さんの中だけでとどめていただくと大変ありがたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

会長 これ有意差とかね、 χ (カイ) 二乗検定はね、意外と統計の専門じゃないとね、パツとイメージしづらいところもあったりはすると思います。こちらまだちょっと外部の方にはちょっと見せるのを控えていただければと思います。はい、ありがとうございます。

はい、その他よろしかったですかね。はい、それではですね、今回初回ということで、こういったところで終わりたいと思います。こちらまたね、こちらアンケート調査もですね、また次回に向けて精度を上げてもらえればと思っております。ではこちらの方で一旦閉めたいと思います。では事務局の方でマイクよろしくお願ひいたします。

事務局 ありがとうございます。本日の議事は全て終了いたしました。委員の皆様、最後まで熱心にご審議いただきありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、副会長よりご挨拶をお願ひいたします。

副会長 はい、初年度の1回目と、審議事項に関してはね、非常に決められた内容だったんですが、最後の報告に関しては非常に中身、ボリュームがあって、これがとても重要になってくるのかなというふうに思います。それはなぜかという、冒頭のですね、お手元の資料でいくと資料1のところの4ページを見ていただきたいんですが、4ページのところで令和6年、7年第9期のところから、計画の認定率と、実績の認定率が逆転してきているわけですね。中期計画の中で描いてきた計画のデータよりもサービスを利用する対象の方が先ほどの説明の中ではそれほど要介護認定者は増えてないよということなんだけど、現実的には、認定者数は増えてきているということですね。結果、これは後期高齢者、特に85歳以上の高齢者の方、最後の表ですね、一番最後のところでいくと6ページの表のところにつながっていくわけですね。サービスを使う割合の高くなる認定率の高い人たちが増えていく社会が、もう近江八幡市でいった10期計画からの計画よりも想定して高まってきているところでは、10期計画については、まさにそこをどうしていくのかということが一点。ただ、ポイントとしては、当初の説明の中にあっただのが5ページ、この表でいう5ページのところで認定者数は増えていて、サービス利用者数も増えてはいるんだけど、実は、要支援

1、2と要介護1どちらかというフレイル、虚弱状態の人たちが増えていてそれ以外のところはそれほど増えているということではない、むしろ減っているんじゃないかというお話が説明の中にありました。ということは、ここが意味、近江八幡市としての特徴と生かしていくべきプラス要素、強みのところだというふうに思っています。そこを今後、10期の計画の中でどういうふうに結びつけていくか、先ほどの説明の中にごさいましたように、いくつかのポイントかなと思いますが、そこを結びつけていくことでむしろ重度化させない。要介護3、4、5、施設サービスを利用せざるを得ない人を増やすというよりは、よく言われる通り、住み慣れた地域の中で自分なりに全てを自立というわけにはいかないのですが、少し支えを受けながらも、いかに不安なく地域の方々と一緒に暮らしていける高齢者の方々を今後も広げていけるかというのが、まさに10期計画の一つの目標でもあるのかなというふうに今日のお話を聞いて思ったところがございます。特に5ページのところもこれ特徴なので、本当はもう少しデータ的には年齢層ごとにこの数字ですね、要支援の方はどこが伸びているんだろうかっていうところはちょっと見てみたいところですね。その方々はどんなサービスをどの程度使っているのか、それを参考にしていっていいんですかね、いい傾向のところなので、悩んだ時に成功体験とか、うまくいっているところから評価分析していくというのは大事な視点かなと思いますので、そんなところは丁寧に見ていきたいなという感じがしたところがございますし、先ほどの6ページもそうなんです、国のデータと比べても85歳、75から85前後のところというのは、非常に低いような気がするんですね。これ国のデータと重ねてみる手も一つあるかなという感じなところがございます。そんなところと、先ほどこんなに厚い資料を宿題で持ち込むわけですが、毎日見る必要はないんですよ、疲れちゃいますからね。興味関心、ちょっとやっておくかというところと、そしたら少し気になるところは赤か付箋つけておいて、少し大まかにまとまったらメールでいいので事務局の近江八幡市へ返していただくと、次の機会というのが10月でしたかね、その時に生きてくるかなと思うので、今日間違えて全部見るなんてしんどいことはやめていただいても結構でございますが、ちょっと今日言われたページのところはもう1回じっくりと見てみるといいのかなというふうに思ったりします。最後に言われた97ページの間6の「何かあった時に誰にどこに相談する」すごいなと思って、男性は「自治会・町内会・老人クラブ」、女性は「地域包括支援センター」とか出てくるんですけど、相談するところが全然違う。女性の方は介護保険勉強してるのかなっていうのが一点と、男性の方はむしろ地域のこういった人って、自治会とか町内会、老人会っていうのが一つの自分のネットワークなんだろうなと。参加する地域の支え合い、本当にインフォーマルなネットワークなんだろうなと。生きがいがづくりとつながってくるところですよ。役割分担みたいなの。ここでも見えてくるのかなというのが、ちらっと聞いてて思ったところがございます。今日の資料の中で、私はちょっと気になったところを、最後に付け加えさせていただいて、宿題で大変ではございますが、気になるところだけで結構かと思えます、メーカー引いて赤くして、事務局へ送って、私はこう見えるけど、これでいいんでしょうかとか、もう少しこういうデータの方がわかりやすいんじゃないですかみたいなところをちょっと出していただくとありがたいなと思います。私からのご挨拶をさせていただきます。ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。それではこれをもちまして、令和8年度第1回総合介護市民協議会を閉会いたします。次回は8月6日をご予定させていただいておりますので、皆様、お時間のあるときに少しこの協議会のことを思い出していただけましたらと思います。そうしましたら、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りくださいませ。本日は誠にありがとうございました。